

# 宍粟 市長と高3生懇談

## 「いずれは地元力の力に」

卒業を控えた宍粟市内の高校3年生と福元晶三市長が、まちの将来について話し合う懇談会が25日、同市山崎町の宍粟防災センターであった。生徒の多くは進学や就職で古里を離れる予定だが、「いずれは地元力の力になりたい」と思いを語った。

若者が定着するまちづくりのヒントを得ようと市が企画。山崎、伊和、千種の3高校の3年生計12人が集まった。千種高の森脇大地さん(17)は「千種は幼稚園から高校まで一体で教育環境が良い。小学校の教師になって千種に戻り、地元力になりたい」。山崎高の原るいさん(17)も「英語教師となって戻り、地

宍粟の将来について市長と話し合う高校生ら  
＝宍粟防災センター



元に恩返しをしたい」と話した。

神戸市のメーカーに就職を希望しているという伊和高の松芳勇馬さん(17)は「宍粟に働きたい会社はなかった」としながらも、「職場の仲間らにも宍粟の魅力を伝え、退職後には戻りたい」とした。

(古根川淳也)